



グリーン経営認証 新規審査申請用 (初めての審査)

記入例

チェックリスト記入用紙

(倉庫業・港湾運送事業用)

記入の注意 (必ずお読みください)

❖ 『倉庫業・港湾運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル』にあるチェックリストに基づいて、貴社(事業所)のグリーン経営に関する取組み内容をチェックしてください。

❖ 取り組んでいる項目には……Yes欄の□に✓を記入。
取り組んでいない項目には……No欄の□に✓を記入。
(全ての項目についてYes、Noのいずれかを記入します)

❖ チェック項目のレベル数値欄が網掛けの項目(認証基準)は、すべてYesになっている必要があります。(認証基準でも、該当しない項目には抹消線を引いてください。)

❖ Yesの項目の内、末尾に「※付表～」と記載のある場合は、必ず、該当する付表へ記入し、提出します。

❖ **複数事業所を一括して申請する場合**

① チェックリスト (P.1～2)……全事業所をとりまとめて1部のみ作成します。
(各項目共に、全事業所が取組んでいる場合のみ、Yes欄に✓を記入できます)

② 付表1～5 (P.3～9)……
* 全事業所をとりまとめて1部作成
* 各事業所 別々に作成 } どちらでも可。

この場合は
(各付表の右上余白部分に、事業所名を明記します……略称で可)

申請書、チェックリスト、付表は、ステープラー(ホチキス)で留めないでください。また、穴開け・ファイリング、両面印刷もしないでください。

◎ 申請書、チェックリスト、付表は、ステープラー(ホチキス)で留めないでください。また、穴開け・ファイリング等もせず、申請書類のみをご郵送ください。

チェックリスト記入表（倉庫・港湾運送）

記入例

チェック項目の内容が貴社の取組にあてはまる場合はYes欄に✓を、あてはまらない場合はNo欄に✓を記入してください。

1. 環境保全のための仕組み・体制の

すべてのチェック項目にYesかNoかチェックしてください。
(網掛けの認証基準項目にチェックするだけでは不可。)

Yes No レベル 1-1【環境方針】

- [1] 会社、事業所等の環境保全への取組を示す環境方針を策定しており、環境方針には法規制の遵守など基本的な取組が示されている[レベル1]
- [2] 環境方針には法規制遵守に加えて自主的・積極的な取組を定めている[レベル2]
- [3] 環境方針は、環境保全への取組状況をもとに、定期的な見直し、改善を行っている[レベル3]

Yes No レベル 1-2【環境行動計画の作成・見直し】

- [1] 現状の環境保全活動への取組状況に関する評価結果や、検討した取組の改善策を踏まえ、今後の目標や目標達成へむけた具体的な取組内容などを盛り込んだ行動計画を作成（見直し）している[レベル1]

Yes No レベル 1-3【推進体制】

- [1] 環境保全に関する管理責任者及び必要ル1]
- [2] 管理責任者や組織を従業員に周知し、役割、責任、権限を明確にしている[レベル2]
- [3] 取組の結果を見ながら、組織や役割、責任、権限の見直しを行っている[レベル3]

★ 認証基準項目(レベル[]欄が網掛けになっている項目)がすべてYesになっていれば、審査の申請が出来ます。Noでは認証基準を満たしていないため申請されても受理出来ません。

Yes No レベル 1-4【従業員に対する環境教育】

- [1] 環境に関わる法規制や行政指導の内容等を従業員に伝達している[レベル1]
- [2] 環境意識の向上を図るため、環境方針の徹底や環境に関する一般的な情報の伝達等を定期的に行っている[レベル2]

2. エネルギー効率の向上

Yes No レベル 2-1【電気使用原単位等に関する定量的な目標の設定等】

- [1] 電気及び燃料の使用状況について把握している[レベル1]※付表1
- [2] 電気使用原単位及び燃料使用原単位等に関して定量的な目標を設定している[レベル2]※付表2
- [2] 電気使用原単位および燃料使用原単位等に関する定量的な目標を達成するため、業務を効率的に進めるための計画を策定している[レベル2]
- [3] 業務の効率化の取組状況や取組結果に基づいて、取組状況が改善するよう、取組みの見直しを行う仕組みを設けている[レベル3]

Yes No レベル 2-2【業務の効率化の実施体制】

- [1] 業務の効率化を推進するための責任
- [1] 従業員に対して、業務の効率化に関
- [3] 従業員に対して、電気使用原単位お

港湾運送業の事業所や普通倉庫しかない事業所などは、省エネ設備・機器を導入していなくても結構ですので、その場合はNoにチェックしてください。
冷蔵倉庫をお持ちの事業所は、省エネ設備・機器を導入していなければなりません。

Yes No レベル 2-3【省エネ設備・機器の導入】（事務所に関するものは除く）

- [1] 省エネ設備・機器にどのようなものがあるか把握している[レベル1]
- [1] (冷蔵倉庫関係のみ認証基準となります) 省エネ設備・機器を導入している[レベル1]※付表4
- [2] 省エネ設備・機器を導入するための計画を策定し、目標達成に向けて導入に取り組んでいる[レベル2]※付表4
- [3] 省エネ設備・機器を導入した結果を確認し、省エネ設備・機器の導入に役立っている[レベル3]

Yes No レベル 2-4 【施設及び設備の保守点検】

- [1] 施設及び設備の保守点検について、責任者を任命している[レベル1]
- [2] 施設及び設備の保守点検を定期的に行い、老朽化、破損、故障、整備不良等によるエネルギーロスを削減している[レベル2]
- [2] 施設及び設備の保守点検に関する実施計画を作成し、これに基づき実施すると共に、その結果を把握し、記録している[レベル2]
- [3] 施設及び設備の保守点検の実施状況や実施結果を見直しを行う仕組みを設けている[レベル3]

発生抑制、再利用、リサイクル、適正処理の4項目についての教育指導が必要です。

3. 廃棄物の発生抑制、適正処理及びリサイクルの推進

Yes No レベル 3-1 【従業員に対する廃棄物に関する教育】

- [1] 廃棄物の発生抑制（発生量削減）、再使用（繰り返し利用）、リサイクル（再生利用＝再資源化）及び適正処理の推進について、従業員に対して指導を行っている[レベル1]

Yes No レベル 3-2 【廃棄物の適正処理】

- [1] 事業活動に伴って発生するダンボール、プラスチック、木屑、穀物残さ等の廃棄物の処理に際して、適正処理やリサイクルを適切に実施している業者に委託している[レベル1]
- [1] 荷役機械（フォークリフト等）の使用に伴い発生する廃油、廃タイヤ、廃バッテリー等の処理に際して、適正処理やリサイクルを適切に実施している業者に委託している[レベル1]

Yes No レベル 3-3 【廃棄物の発生抑制、リサイクル】

- [1] 廃棄物の発生状況について把握している[レベル1] ※付表5
- [2] 廃棄物の発生抑制やリサイクルの少なくともいずれかに関して定量的な目標を設定している[レベル2] ※付表5
- [2] 廃棄物の発生抑制やリサイクルの少なくともいずれかの目標達成のための具体策を策定し、実施している[レベル2]
- [3] 廃棄物の発生抑制やリサイクルの少なくともいずれかに関する取組状況や取組結果に基づいて、取組状況が改善するよう、取組の見直しを行う仕組みを設けている[レベル3]

4. 管理部門（事務所）における環境保全の推進

Yes No レベル 4-1 【管理部門（事務所）における環境保全】

- [1] 事務所内での環境保全の取組みについて、従業員に周知している[レベル1]
 - ・エコマーク製品等を優先的に購入する
 - ・不必要な照明の消灯を徹底する
 - ・空調機器を適正温度に設定する
 - ・コピー用紙等の紙使用量削減に努める
 - ・分別回収ボックスを設置し、分別回収に努める
 - ・使い捨て製品の購入を控える
- [2] 事務所内でのエネルギー使用量の削減及び廃棄物の抑制について、定量的な目標を設定している[レベル2]
- [3] 事務所内でのエネルギー使用量の削減及び廃棄物の抑制についての取組み状況を目標に照らして評価し、取組み状況が改善するよう、取組の見直しを行う仕組みを設けている[レベル3]

左記の6項目を実際に実施しているかは問いませんが、少なくとも環境保全にとって大切であることを、情報として従業員に伝えていることが必要です。

■付表1(倉庫業者用)

事業所で管理する全ての倉庫に関して、また、施設限定している場合はその限定施設(倉庫)に関して、

- 冷蔵倉庫: 所管面積(m³)
 - 冷蔵倉庫以外の倉庫: 所管面積(m²)
- を記入してください。

兼業の場合の港湾運送については記入不要です。

屋している[レベル1]
入してください。

原単位を計算(管理)するための分母となる数量の単位を記入してください。(トン(t)、容積(m³)など) 営業量を反映しエネルギー効率の管理がしやすいものを使います。

初回の認証登録申請時には、過去1ヶ月間以上の実績把握があれば申請は可能です。望ましいのは1年単位(管理年度)での把握です。把握期間が1ヶ月間の場合は、例えば「2017年9月～2017年9月」のように記入します。

EXCEL版で原単位の自動計算を利用する場合は、使用エネルギーの種類各行に、事業所(施設)としての入出庫量または取扱量を入力してください。(手書きで作成のため自動計算を利用しない場合は、エネルギーの第一項目のみの記入で結構です。)

記入例

実績把握対象期間 (2016 年 4 月 ~ 2017 年 3 月)

(事業所名称及び) 倉庫の種類 ※1	両事業一括申請事業所には○を記入	倉庫の名称 ※2	所管容積 (冷蔵倉庫) 又は 所管面積 (その他倉庫)	単位 m ³ 又は m ²	使用エネルギー (種類)	入出庫量等 ※3	電気使用量	燃料使用量	電気使用原単位	燃料使用原単位	二酸化炭素排出係数 ※4	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出原単位
						A	B	C	D=B/A	E=C/A	F	G=B×F又はC×F	H=G/A
						単位 (ton)	kWh	L, Kg, 等					
東京営業所		東倉庫、西倉庫	1,650.00	m ²	電気	1,233.00	354.00		0.2871		0.561	198.59	0.1611
普通倉庫		定温1号、2号倉庫	844.00	m ²	軽油	1,233.00		61.00		0.0495	2.580	157.38	0.1276
千葉営業所	○				電気	2,588.00	241.00		0.0931		0.561	135.20	0.0522
普通倉庫		出洲海浜倉庫1号、2号	685.00	m ²	軽油	2,588.00		98.00		0.0379	2.580	252.84	0.0977
千葉港出洲埠頭		出洲1号、2号上屋			LPG	2,588.00		52.00		0.0201	1.670	86.84	0.0336
					ガソリン	2,588.00		124.00		0.0479	2.320	287.68	0.1112
会社(事業所)全体						3,821.00	595.00	335.00	0.1557	0.0877	—	1,118.54	0.2927

倉庫業または港湾運送事業のいずれか一方の認証登録申請の場合は、該当する事業に関する施設等の明細を記入してください。

倉庫業及び港湾運送事業の一括申請の場合は、倉庫に関する明細と、港運に関する明細の両方を記入してください。

二酸化炭素排出係数 ※4
軽油
ガソリン
都市ガス
PG(液体)
LPG(気体)

事業所ごとの入出庫量、取扱量等の合計を記入してください。両事業兼業の場合は、倉庫の入出庫量及び港運の取扱量等の合計を記入してください。

電気使用量の合計 ÷ 入出庫量等の合計

2.49 kg/L
2.71 kg/L
3.00 kg/L

二酸化炭素排出量の合計 ÷ 入出庫量等の合計

PG: 1kg=1.795L
③

(環境省、経産省)及び「プロパン、ブタン、LPガスのCO₂排出原単位に係わるガイドライン」(日本LPガス協会)に基づき換算。

■付表2(倉庫業者用)

記入例

- 電気使用原単位及び燃料使用原単位等に関して定量的
→ 現在(今期)の目標値と、その目標を掲げて取り組む期

付表1で把握した過去(前期)実績に基づいて、今後(今期)の原単位に関する目標を設定し、その実現に向けて取り組む期間を設定します。期間は任意で決めて結構ですが、**会社の管理年度に合わせた1年単位が望ましいです。**

目標設定期間には、申請月(申請書提出日現在=申込日)が含まれていなければなりません。

記入上の注意:

- ①「前期実績(B)」及び「改善率(C)」及び「今期目標(A)」を必ず設定してください。(今期(現在)の期間を記入してください。)
- ②「今期目標」欄に削減率を設定してください。
- ③「目標設定期間」は、任意で決めて結構ですが、**会社の管理年度に合わせた1年単位が望ましいです。**
- ④ その他欄には、任意で記入してください。

エネルギー別に今期目標とする原単位の数値を設定してください。EXCEL版は改善率を入力すると自動計算で表示されます。

目標設定期間 (2017 年 4 月 ~ 2018 年 3 月)

(事業所名称及び倉庫の種類)	倉庫の名称	使用エネルギー(種類)	電気使用原単位の目標			燃料使用原単位の目標			その他(二酸化炭素排出原単位)		
			今期目標	前期実績(付表1)	改善率%	今期目標	前期実績(付表1)	改善率%	今期目標	前期実績	改善率%
			A	B	C	A	B	C	A	B	C
東京営業所	東倉庫、西倉庫	電気	0.2842	0.2871	1.0				0.1595	0.1611	1.0
普通倉庫	定温1号、2号倉庫	軽油				0.0490	0.0495	1.0	0.1264	0.1276	1.0
千葉営業所		電気	0.0922	0.0931	1.0				0.0517	0.0522	1.0
普通倉庫	出洲海浜倉庫1号、2号	軽油				0.0375	0.0379	1.0	0.0967	0.0977	1.0
千葉港出洲埠頭	出洲1号、2号上屋	LPG				0.0199	0.0201	1.0	0.0332	0.0336	1.0
		ガソリン				0.0474	0.0479	1.0	0.1100	0.1112	1.0
会社(事業所)全体			0.1542	0.1557	1.0	0.0868	0.0877	1.0	0.2898	0.2927	1.0

(注) 改善率 $C = (B - A) / B \times 100$

付表1で把握した過去(前期)の原単位に関する実績を転記します。EXCEL版では自動的に付表1から飛ばして表示します。

会社(事業所)全体の目標値。

原単位の削減率を設定して記入(入力)します。

その他の記入は任意です。

■付表1(港湾運送事業者用)

- 電気及び燃料の使用状況について把握している[レベル1]
 → 把握している場合には、次の表に記入してください。

記入上の注意:

原単位を計算(管理)するための分母となる数量の単位を記入してください。
 (トン(t)、容積(m3)など)営業量を反映しエネルギー効率の管理がしやすいものを使います。

初回の認証登録申請時には、過去1ヶ月間以上の実績把握があれば申請は可能です。
 望ましいのは1年単位(管理年度)での把握です。
 把握期間が1ヶ月間の場合は、例えば「2017年9月～2017年9月」のように記入します。

記入例

EXCEL版で原単位の自動計算を利用する場合は、使用エネルギーの種類各行に、事業所(施設)としての入出庫量または取扱量を入力してください。
 (手書きで作成して自動計算を利用しない場合は、エネルギーの第一項目のみの記入で結構です。)

実績把握対象期間 (2016 年 4 月 ~ 2017 年 3 月)

(事業所名称 及び) 埠頭名 ※1	両事業一括申請事業所には○を記入	施設名称又は使用機器 ※2	所管容積(冷蔵倉庫)又は所管面積(その他倉庫)	単位 m3又はm2	使用エネルギー種類	取扱量 ※3	電気使用量	燃料使用量	電気使用原単位	燃料使用原単位	二酸化炭素排出係数 ※4	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出原単位
						A	B	C	D=B/A	E=C/A	F	G=B×F又はC×F	H=G/A
						単位 (ton)	kWh	L				Kg	
神戸営業所		摩耶東1号、2号上屋			電気	1,254.00	357.00		0.2847		0.561	200.28	0.1597
神戸港摩耶ふ頭		摩耶西5号、7号上屋			軽油	1,254.00		47.00		0.0375	2.580	121.26	0.0967
					ガソリン	1,254.00		246.00		0.1962	2.320	570.72	0.4551
千葉営業所	○				電気	3,257.00	1,377.00		0.4228		0.561	772.50	0.2372
普通倉庫		出洲海浜倉庫1号、2号	685.00	m2	軽油	3,257.00		99.00		0.0304	2.580	255.42	0.0784
千葉港出洲埠頭		出洲3号、4号上屋			LPG	3,257.00		46.00		0.0141	1.670	76.82	0.0236
会社(事業所)全体						4,511.00	1,734.00	438.00	0.3844	0.0971	—	1,996.99	0.4427

倉庫業または港湾運送事業のいずれか一方の認証登録申請の場合は、該当する事業に関する施設等の明細を記入してください。

倉庫業及び港湾運送事業の一括申請の場合は、倉庫に関する明細と、港運に関する明細の両方を記入してください。

事業所ごとの入出庫量、取扱量等の合計を記入してください。
 両事業兼業の場合は、倉庫の入出庫量及び港運の取扱量等の合計を記入してください。

電気使用量の合計÷入出庫量等の合

に定める算定方法及び係数による。

二酸化炭素排出量の合計÷入出庫量等の合計

(環境省、経産省)及び「プロパン、ブタン、LPガスのCO2排出原単位に係わるガイドライン」(日本LPガス協会)に基づき換算。

■付表2(港湾運送事業者用)

記入例

- 電気使用原単位及び燃料使用原単位等に関して定量的
→ 現在(今期)の目標値と、その目標を掲げて取り組む期

付表1で把握した過去(前期)実績に基づいて、今後(今期)の原単位に関する目標を設定し、その実現に向けて取り組む期間を設定します。期間は任意で決めて結構ですが、会社の管理年度に合わせた1年単位が望ましいです。

目標設定期間には、申請月(申請書提出日現在=申込日)が含まれていなければなりません。

記入上の注意:

- ①「前期実績(B)」及び「改善率(C)」の欄は、付表1で把握した過去(前期)の実績を転記してください。
- ②「今期目標」欄は、EXCEL版は改善率を入力すると自動計算で表示されます。
- ③「目標設定期間」欄は、取り組んでいる今期(現在)の期間を記入してください。
- ④ その他欄には、任意で設定している目標があれば記入してください。

エネルギー別に今期目標とする原単位の数値を設定してください。EXCEL版は改善率を入力すると自動計算で表示されます。

目標設定期間 (2017 年 4 月 ~ 2018 年 3 月)

(事業所名称 及び) 埠頭名	施設名称又は使用機器	使用エネルギー(種類)	電気使用原単位の目標			燃料使用原単位の目標			その他(二酸化炭素排出原単位)		
			今期目標	前期実績(付表1)	改善率%	今期目標	前期実績(付表1)	改善率%	今期目標	前期実績	改善率%
			A	B	C	A	B	C	A	B	C
神戸営業所	摩耶東1号、2号上屋	電気	0.2818	0.2847	1.0				0.1581	0.1597	1.0
神戸港摩耶ふ頭	摩耶西5号、7号上屋	軽油				0.0371	0.0375	1.0	0.0957	0.0967	1.0
		ガソリン					0.1962		0.4506	0.4551	1.0
千葉営業所		電気	0.4186	0.4228	1.0				0.2348	0.2372	1.0
普通倉庫	出洲海浜倉庫1号、2号	軽油				0.0301	0.0304	1.0	0.0776	0.0784	1.0
千葉港出洲埠頭	出洲3号、4号上屋	LPG				0.0140	0.0141	1.0	0.0234	0.0236	1.0
会社(事業所)全体			0.3805	0.3844	1.0	0.0961	0.0971	1.0	0.4383	0.4427	1.0

(注) 改善率 $C = (B - A) / B \times 100$

会社(事業所)全体の目標値。

付表1で把握した過去(前期)の原単位に関する実績を転記します。EXCEL版では自動的に付表1から飛ばして表示します。

原単位の削減率を設定して記入(入力)します。

その他の記入は任意です。

■付表3

□ 従業員に対して、業務の効率化に関する基礎的な知識についての教育・指導を行っている[レベル1]

→ 教育・指導を行っている取組内容に○をつけてください。

	取組	記入欄
倉庫・上屋関係	貨物の適正な配置管理	○
	不要照明の消灯	○
	過冷却運転防止対策	
	その他 (定温庫扉の開閉を迅速に、こまめにする)	上記以外にも独自に取組み・指導をしている事柄があれば、記入してください。
荷役機械関係 (フォークリフト等)	作業中以外は、アイドリングストップに心がける	○
	タイヤの空気圧を適正にする	○
	急な発進・停止・旋回はやらない	
	その他 (貨物エレベーターの効率的な使用 = 1回の積載量を多くして使用回数を減らす)	上記以外にも独自に取組み・指導をしている事柄があれば、記入してください。

※上記の項目のうち1項目でも基礎的な知識についての教育・指導を行っている場合はレベル1となります。

■付表4

- (冷蔵倉庫関係のみ認証基準となります)省エネ設備・機器を導入している[レベル1]
→ 導入している場合は、下表に記入してください。
- 省エネ設備・機器を導入するための計画を策定し、目標達成に向けて導入に取り組んでいる[レベル2]
→ 導入計画を下表に記入してください。

装置 (進相コンデンサ、 高効率トランス等)	現在の状況			今後の導入計画		
	導入可能な 機器の台数	導入実績 台数	導入率	追加導入 計画台数	導入率	時期 (いつまでに)
	A	B	$C=B/A \times 100$	D	$E=(B+D) / A \times 100$	F
進相コンデンサ	4 台	3 台	75.0 %	1 台	100.0 %	2018年度中
高効率トランス	4 台	3 台	75.0 %	1 台	100.0 %	2017年度中
デマンドコントローラー	1 台	1 台	100.0 %		%	
インバーター (エレベーター)	3 台	2 台	66.7 %		%	
断熱オーバーヘッド スライダー	42 台	10 台	23.8 %	10 台	47.6 %	2018年度中
ソックダクト	4 台	1 台	25.0 %		%	
断熱性塗料(倉庫屋根)	4 台	1 台	25.0 %		%	
			%		%	

冷凍・冷蔵倉庫を営業している場合は認証基準ですので、必ず記入してください。
それ以外の場合は認証取得では無いので、導入している場合(チェックリストでYesだった場合)のみ記入してください。

記入例

■付表5

- 廃棄物の発生状況
→ 把握
- 廃棄物の発生抑制・リサイクル率
→ 目標

貨物の取り扱いによって生じる廃棄物及び廃油など、自社で交換することで荷役機器から生じる廃棄物の排出量を把握します。
事務所から生じる廃棄物も本来管理の対象とすべきものですが、その量を把握していなくても申請は可能です。

望ましいのは1年単位(管理年度)での把握ですが、初回の認証登録申請時には、過去1ヶ月間以上の実績把握があれば申請は可能です。

把握期間が1ヶ月間の場合は、例えば9月分なら「2017年9月～2017年9月」のように記入します。

いずれかに関して定量的な目標を設定している[レベル2]に記入してください。

EXCEL版では、改善率を入力すると、今期目標が自動計算で表示されます。

発生抑制やリサイクル率の目標を設定していなくても、申請は可能です。

廃棄物の種類 (プラスチック、木くず、ダンボール、等)	廃棄物の発生状況		廃棄物の発生抑制・リサイクルの今期目標					
	実績把握期間		取組期間					
	(2016年4月～2017年3月)		(2017年4月～2018年3月)					
	前期発生量		発生量			リサイクル率(%)		
(ton,kg,m ³ ,L等)→	単位	今期目標	前期実績	改善率(%)	今期目標	前期実績	改善率(%)	
		A	B	(B-A)/Bx100	C	D	C-D	
プラスチック	235.0	Kg	228.0	235.0	3.0	84.9	74.9	10.0
木くず	475.0	Kg	460.8	475.0	3.0	80.1	70.1	10.0
ダンボール	258.0	Kg	250.3	258.0	3.0	100.0	100.0	0.0
紙	26.0	Kg	26.0	26.0	0.0	100.0	100.0	0.0
金属	1,240.0	Kg	1,240.0	1,240.0	0.0	100.0	100.0	0.0
一般混合物	144.0	Kg	139.7	144.0	3.0			
全体(事業所)	2,378.0	Kg	2,344.6	2,378.0	1.4	95.5	85.5	10.0

- 今期目標(A) = (100 - 改善率) ÷ 100 × 前期実績(B)
- 今期目標(C) = 改善率 + 前期実績(D)

前期発生量を何%削減する(したい)かです。

今期目標が前期実績と同じ現状維持の場合、改善率は0%となります。

それぞれの品目について、今期のリサイクル率を何%向上させたいかです。

EXCEL版では【参考】のリサイクル率計算表に前期のリサイクル量を入力すると自動計算で表示されます。
手書きで記入する場合は、リサイクル率を下記の通り計算してください。
『リサイクル率 = 前期のリサイクル処理量 ÷ 前期廃棄物発生量 × 100』

事業所全体として今期のリサイクル率を何%向上させたいかです。

改善率(%) : 発生量削減 = (B-A)/Bx100
リサイクル率向上 = C-D

発生量について品目ごとおよび全体(事業所)の両方の目標を設定する場合には、まず品目ごとの発生量目標値を設定します。次いで全体(事業所)の改善率を、以下の計算により求めます。(EXCEL版では自動計算になっています)
全体(事業所)の改善率(削減率)
= (前期実績合計 - 今期目標合計) ÷ 前期実績合計 × 100
= (2,378.0 - 2,305.0) ÷ 2,378.0 × 100 = 3.1%

発生抑制やリサイクル率の目標を設定していなくても申請は可能です。

- 発生量の抑制目標およびリサイクル目標の設定には、以下のようないくつかの方法があります。自社のやりやすい方法で設定してください。
- ①品目ごとに目標を設定する
 - ②全体(事業所)で目標を設定する
 - ③上記の両方で目標を設定する など